

## 「若い英語教員と繋がる一寺島メソッドをどう広めたか、その2」

宮城県小牛田農林高等学校 佐々木忠夫

### 1. はじめに

「寺島メソッド 英語アクティブ・ラーニング」の出版を機に、宮城高教組の「教育講座」（教育研究集会）への参加を呼びかける目的で、部活動の顧問の関係や組合員の先生を通じて、書籍と雑誌「新英語教育」や自作の記号づけプリントを持って行き、紹介しながら、いろいろな話をしてきました。

今回の報告はその中から、宮城農業高校の英語の授業改革のために、校長先生を通じての以来から始まった取り組みを報告します。

### 2. 校長先生からの依頼

宮城県小牛田農林高校は130年以上の伝統のある学校であり、農業の教員を多く排出していて、その中に宮城県農業高校で校長先生をしている先生がいます。

その先生の息子が数年前に本校に在籍していて、3年間私が英語を担当していました。英語はあまり得意ではありませんでした。それでも寺島メソッドによる授業で英語に対する苦手意識が徐々になくなっていったようでした。中学校時代とは違い、英語の授業中に居眠りをすることもなく、まじめに取り組んでいました。そして、その授業のことを家に帰り、父親であるその校長に話していたそうです。

たまたま、私はソフトテニス部の顧問をしており、その校長は宮城県高体連のソフトテニス専門部部长で、しかも、本校ソフトテニス部のOBであり、かつては本校でも顧問をしていました。

そのような関係でその校長先生とはいろいろと話す機会がありました。その折に、自分が校長をしている学校の生徒の英語力についての悩みや今の英語教育に対する不満などを話していました。そのときに、私の授業のことは息子を通じて知っていたので、自分の学校の先生に見せたいという申し出がありました。

### 3. 授業を見学してもらう

2017年12月にその学校から教員10年目の中野先生という先生が出張という形で、私の授業を見学に来てくれました。県の南部にある学校から県の北部にある学校までわざわざ来てもらいました。

そのときの授業は1年生2クラスの授業を見てもらいました。せっかくなので、全く同じ授業をするのではなく、違うものを入れた授業にするようにしました。

(1) 英語の歌 すでにリズム読みをしているので、スムーズに歌うことができている状態でした。

(2) 教科書本文の視写

(3) 教科書本文のリズム読み

(4) 教科書本文に記号をつけながらのフレーズ訳

事前に記号付けプリントで和訳は行っていたので、多くの生徒はそれほど時間がかからずに行うことができる状態でした。それでも英語の苦手な生徒は助詞を正しく入れることができない生徒もいます。

(5) 英問英答

質問文は一般動詞のみの文だけにしています。主語の前後に助動詞と本動詞が来る形が疑問文として、きちんと理解できるようにしたからです。しかし、実際の教科書の質問文

は be 動詞を使ったものや、主語が疑問詞になってこの形になっていないものもあり、それでは英語の苦手な生徒は混乱するだろうと思っています。そして、その疑問文には記号をつけておくことで、疑問文の構文が浮き上がってきます。

#### 4. 授業後

授業後、校長室で授業や寺島メソッドについていろいろと話し合いました。寺島メソッドの本を紹介したり、自作のプリント教材をあげたりしました。

聞くと、授業は教科書をほとんど使わずに、英単語集の「DUO 3.0」を使って、その例文の暗記に相当数の時間を使っていたそうです。しかし、進学校ならいざ知らず、農業高校で大学進学者もそれほどいない学校でそのような授業をしたらどうなるのか。当然、ほとんどの生徒は授業に参加しない状態だったそうです。

その先生が赴任する前からそのような授業行われていて、その授業を行っていた人が転出したのを契機に、生徒の願いに沿った授業をしたいということで、今回このようなことになったのでした。

#### 5. 今年度の授業とさらなる疑問

その後、学校に戻って早速次年度から寺島メソッドを取り入れた授業をすることを決めて、準備に取りかかったそうです。しかも、英語科全体で取り組むことにしたようでした。そして、新年度になり、みんなで手探りで寺島メソッドによる授業を始めたということでした。

しかし、授業を見た先生がひとりということもあり、全体でやっているとはわからないことがさらにでてきたそうで、5月に連絡をもらいました。

それで、電話やメールではわからないところもあるだろうから、直接会って話をすることにして、5人もの先生に来ていただくより、私ひとりが伺った方が、都合がいいだろうということで、6月の考查期間中に伺うことにしました。

2時間くらいを予定していたのですが、話をしていくうちにどんどん疑問が出てきて、結局4時間過ぎてしまいました。それでも足りなかったため、またいつか話せる時間を作ることにしました。

#### 6. 現在の取り組み

中野先生は寺島メソッドを取り入れるに当たって、生徒に「集中力・持続力・計画力」を身につけさせたいと考えていたようです。

以前は一斉授業で教科書の英文の和訳をさせると、生徒は興味を示さず、退屈してしまっているようでした。しかし、寺島メソッドに切り替えると授業終了のチャイムが鳴るまで真剣に取り組むようになってきたそうです。

視写やリズム読みも授業に取り入れているそうですが、これでいいのかと思い悩むこともあるようです。特にリズム読みでは記号の付け方がまだよくわからないと言っていました。

6月に訪問した際に、英語の歌を授業に取り入れたいという若い先生がいたので、私が授業で使って生徒に評判のいい歌2曲を紹介し、リズム記号入りのプリントをメールで送りました。今後の取り組みが楽しみです。

#### 7. おわりに

中野先生は、寺島メソッドはもっともっと勉強する必要があるし、様々なことを学んでいきたいと今

思っているそうです。

英語の授業が会話中心になり、さらには小学校英語が始まって、英語嫌いが増え、英語嫌いになる時期が早まっています。それは俗に言われる底辺校だけでなく、進学校にも広まっているように思います。

中野先生のように、この現実に関心を痛めている先生がまだまだいます。寺島メソッドはそのような多くの教員にとって救いだと思います。しかし、宮城ではまだまだ寺島メソッドの認知度は低い状態です。

現在再任用2年目ですが、学校の中に寺島メソッドを広めることができるのもあとわずかです。これからも寺島メソッドを広めていきたいと思います。そして、「寺島メソッドをどう広めたか」の次の報告ができるようにしたいと思います。